

「腫瘍細胞生物学セミナー」を開催

2020 年 2 月 14 日

2 月 14 日（金）、金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室において、国立精神・神経医療研究センター 病態生化学研究部 室長 川内大輔 先生 をお招きして、腫瘍細胞生物学セミナーを開催しました。

セミナーでは、「がんゲノムの解読からがんシグナルの同定へ ～発生工学的アプローチによる～」という演題で、特に上衣腫および SHH 型髄膜種の発生における新たな知見について講演して頂きました。臨床データベースに基づいた疑問をマウス発生工学を駆使して解決するという手法はとても美しく、未発表データに関するディスカッションも含め、大変有意義なセミナーとなりました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等 23 名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



第3回 腫瘍細胞生物学セミナー

がんゲノムの解読からがんシグナルの同定へ ～発生工学的アプローチによる～



2020年2月14日（金） 17:00 - 18:00

金沢大学がん進展制御研究所 4階 会議室

国立精神・神経医療研究センター

病態生化学研究部 室長 川内 大輔 先生

近年のゲノム解読技術の著しい進歩により、様々な腫瘍のがんゲノムの解読が世界的に行われ、それぞれのがんに特徴的な遺伝子変異が報告されてきている。同時に多層的なオミックス解析による予想以上に多様な腫瘍のサブタイプが報告され、いよいよ遺伝子変異に応じた個別治療の必要性が提唱されている。我々はがんゲノミクスとマウス発生工学を駆使し、小児脳腫瘍に特徴的な遺伝子変異がいかに関与しているのか、その分子機序を解明することにより新規分子診断マーカーの同定や標的がんシグナルの解明を目指している。セミナーでは特に未発表の最新データを紹介する予定である。

【参考文献】

Kawauchi et al., 2012 Cancer Cell. 21(2), 168-80

Zuckermann et al., 2015 Nat Commun. 6, 7391

Forget et al., 2018 Cancer Cell. 34(3), 379-395

Pajtlér et al., 2019 Nat Commun. 10, 3914

川内先生は2013年より Deutsches Krebsforschungszentrum (DKFZ, Heidelberg) にて研究室を主催され、マウス発生工学を駆使して脳腫瘍研究を展開している新進気鋭の研究者です。昨年より現所属に移動され、脳腫瘍発生の分子機構に迫る研究を更に発展させておられます。皆さまどうぞ奮ってご参加下さい。

連絡先：金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍細胞生物学研究分野
平田 英周 ehirata@staff.kanazawa-u.ac.jp（内線 6710）